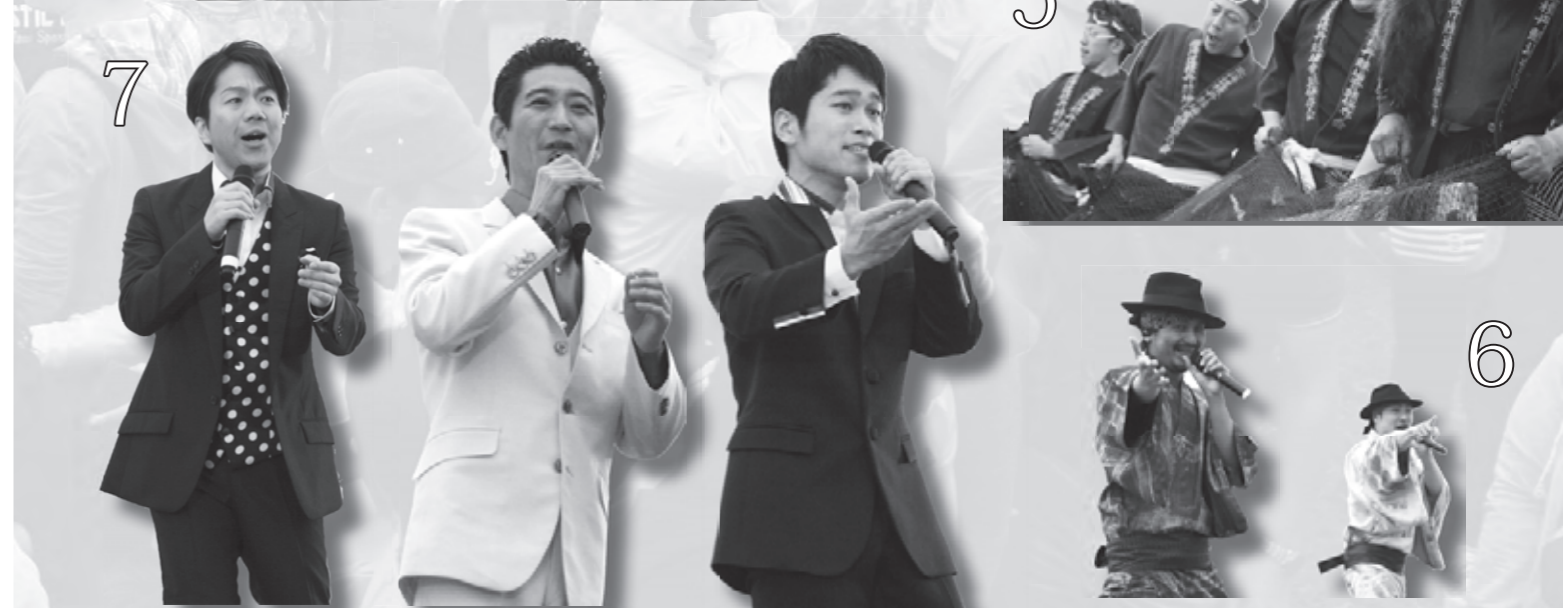


第10回 積丹ソーラン 味覚祭り

〈写真の紹介〉

- 10回目の開催を記念して2回行われた「お楽しみ抽選会」、豪華景品が山本積丹ソーラン味覚祭り実行委員会から手渡された。
- 北海道大学「縁」は、手作りの旗で祭典の10周年を祝福。
- 美国町出身のシンガーソングライター「しもひろしさん」は松山千春氏の楽曲などを披露。
- 今年で3回目の「ウニ剥きコンテスト」出場者は神漁協組合長の説明を熱心に聞き、作業を。
- 正調練場音頭保存会が古き練場の風景を今に伝える伝統芸能を披露。
- 一世代時代組は歌や殺陣等幅広いパフォーマンスで会場を盛り上げ。
- 話題のイケメン演歌歌手、(左から)こおり健太さん、走裕介さん、蒼彦太さんらによるステージは町外から熱狂的なファンが駆けつける人気ぶり。
- 美国中学校吹奏楽部の演奏に、訪れた父母の皆さんからは熱い声援が。
- ちはらさきさんの、プロの「歌」で会場が沸く。
- 今仁志さんは、余別港の漁船を題材にした楽曲「第十五和光丸」で積丹の海を熱く歌い上げ。
- 今年の第24回 YOSAKOIソーラン祭りで大賞受賞の名門「平岸天神」による迫力の演舞。



第10回を迎える初夏の祭典！ 期待に応えた「食」ステージ

6月28日、記念すべき第10回目を迎えた初夏の大イベント「積丹ソーラン味覚祭り」が開催されました。今年も多数の出店者が自慢の鮮魚や鮮魚加工品のほか、例年来場者が行列を作り、即完売となる恒例のジャンボ浜鍋、姉妹都市の高知県香美市からの鰹のたたきや香り高いゆず製品などが販売され、目当ての積丹町が誇る「食」に来場者は思わず顔をほころばせていました。

一方、ステージでは、YOSAKOIソーラン名門2チームによる完成された演舞や、プロ歌手による本物の「歌」、町の伝統芸能「正調練場音頭」等が会場を沸かせ、美国中学校吹奏楽部による演奏には父母からの熱い声援が飛んでいました。さらに、毎年恒例の「豊漁豊作餅まき」や、今年で3回目の試み「ウニ剥きコンテスト」などのプログラムの他、第10回目の味覚祭りを記念して2回行われた「お楽しみ大抽選会」では、節目の開催にふさわしい豪華賞品が用意され、抽選番号が読み上げられるたびに歓声が湧き上がりました。最後は第10回の記念を祝福する過去最多約500発の花火が夜空を鮮やかに彩り、大盛況となった祭典に終

わりを告げました。

また、会場に隣接した美国漁港では、B&G財団やウォーターセーフティニッポンなど関係団体の協力で「水の事故ゼロ運動」が実施され、参加者は水難事故への対処法を学びました。

「お神威ソーラン祭り」を引き継いで 「積丹ブランド」を更に磨く

ついに第10回目の開催を迎えた「積丹ソーラン味覚祭り」は、それまで開催されていた「ドンと来い積丹味覚祭り」（6月開催・開催6回）と「お神威ソーラン祭り」（8月開催・開催39回）を統合し、より魅力的なイベントとすべく平成18年6月25日に初開催されました。

平成18年には来場者数2万1千人という記録が残っていますが、今回は2万7千人が来場し、年々増えている来場者は今や3万人にも迫る勢いで、今後はリピーターのみならず、来場者のSNS等による情報発信で更なる来場者増が見込まれます。

積丹ブランドの「食」や「観光」を町外へPRする絶好の機会となっている「積丹ソーラン味覚祭り」そのブランドを守り、更なる本祭典の魅力拡大にまちぐるみで取り組んでいきたいと思います。